

「馬場小室山遺跡フォーラム」第60回ワークショップ

【実践！パブリック・アーケオロジー2014】

馬場小室山遺跡を形成した「見沼文化」(人類活動と環境変遷)の追及、そして未来への展望

1.【井山紘文さんと「見沼文化」巡検】：見沼たんぼ西縁の素晴らしい桜並木でお花見です。

- ・馬場小室山遺跡は北に芝川を見る台地縁では一番大奥まった地形の溺れ谷の谷奥に位置しますが、芝川本谷に出て上流に遡り、西に隣接するこれまた大きな溺れ谷を越えると、東西約650(500)m、南北約600(450)mというとても広く広大な大古里(おぶさと)遺跡になり、見沼をのぞむ標高14m前後の台地部分全体が遺跡の範囲とされています。
- ・大古里遺跡は1994年の第19地点(西側)調査で、縄文時代前期「関山式」の大形竪穴住居址(長径13.2m、短径5.8mで1m前後の炉址3ヶ所確認)が検出され大きな話題となりました。2001年には報告書が刊行され、注目の第3号住居址出土土器は平ケース(18リットル)35箱に上るとされ、代表的な土器のみが報告されました。これらの住居址には貝層の形成はみられないようです。
- ・西側が「花積下層式」～「関山式」の住居址が顕著ならば、東側は「黒浜式」～「諸磯b式」で住居址内ヤマトシジミ貝層も検出されていることから、縄文時代前期の初頭から後葉に至る集落が地点を異にして形成されるなど、「見沼文化」の前期拠点集落ですが、南西側谷奥の山崎貝塚との関係も気になる所です。

2.【パブリック・アーケオロジーからみた日本考古学史】：坪井正五郎の『コロポックル思考法』に学ぶ(1)

- ・日本考古学の歩みはパブリック・アーケオロジーと密接な関係があります。考古学が近代化の流れと軌を一にした歩みにより大きな成長を遂げる過程は、先ずパブリック・アーケオロジーとしてスタートしました。
- ・そこでモースに続き、前回の問題意識を踏まえて今回からは坪井正五郎の学びを行います。学史的に観たパブリック・アーケオロジーの在るべき姿を評価し、現代と比較することになります。
- ・例えば、具体的に自身の研究を振り返るならば、1976年以来進めてきた「製塩土器インダストリ論」は坪井正五郎の「コロポックル思考法」と共通する方法論と評価されます。それは「コロポックル」をXと置き換えて読むことで、Xとは縄文人としての位相へ矛盾なく到達する考古学的思考法であるように、「製塩土器」を「Y土器」と置き換えて「Y土器インダストリ論」と読むことで、海の資源を中核とした生業に関わる特有の技術基盤を有し、かつ大量廃棄行為の縄文時代の位相が導出されるのです。この「Y土器」は突然に出現するのではなく、無文粗製土器から変遷し、時間をかけて新たな様式として確立し突如として姿を消した経緯から、弥生式以降古代にかけて展開する「師楽式土器」の歴史的な遡源として演繹することはしません。「製塩土器」に特化することなく、遺跡に見られる多くの現象と多様な遺物との関連性を統合的に整理し、総合的なデータ対話型の分析から本質へと迫る方法論の構築を強調して「製塩土器インダストリ論」を展開したのです。「Y土器」を伝説の「製塩土器」として立論したにも拘らず、1976年当時は坪井正五郎の学問の意義が正しく理解できず、今となっては正に赤面の至りといえるでしょう。

3.【「見沼文化」2014 感謝祭(5/4(みどりの日))】：恒例・馬場小室山遺跡クリーンアップ大作戦

- ・午前10時に三室中学校バス停前集合。好評の青空考古学教室は「縄文土器の形」を予定します。

4.【「見沼文化」2014 熱中祭(8/29～8/31)】：『山田湾まるごとスクール』は船越半島の調査

- ・馬場小室山遺跡から「見沼文化」へ、「見沼文化」から「見沼フィールド・ミュージアム構想」へ、そして3・11東日本大震災を契機とした「山田湾まるごとスクール」の可能性へ、とパブリック・アーケオロジー「第二幕」の展開に通底する志向は、「モノ」から「ヒト」へ、という社会との直接的な関わり合いへのチャレンジです。
- ・事務局(斎藤瑞穂・斎藤友里恵・鈴木正博)は2/26～2/27にかけて山田町の継続調査を行いました。不覚にもぎっくり腰を悪化させ、その後の予定は殆どキャンセルすることになり、未だに歩行困難と重い荷物を持つことができません。とは言え、山田史談会会長の川端弘行さんはご自身の文化財をレスキューし、被災されたご自宅で整理を続けておられる姿に接し、お手伝いしたい旨の申し出により、次の企画に繋がりました。
- ・また、昨年暮れには山田町出身の自然地理学者・小岩清水さんとお会いする機会を得、山田湾に関する凄いい業績を知ることができましたので、今回はその極一部を紹介します。

5.【その他】：その他活動連絡・予定など

- ・東京都新宿区百人町にある人間学研究所にて「教育的人間学部会例会」(3/28)でパブリック・アーケオロジーとして「山田湾まるごとスクール」について活動の様子などを紹介(担当:五十嵐聡江・鈴木正博)

以上